



2025年 加温ハウスぶどう病害虫防除暦

JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
カイガラムシ類発生園地は主幹・主枝の粗皮削りを行う【耕種的防除】							
／	発芽直前	① 展着剤(ハイテンパワー) 10 ml パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1回	250	晩腐病 黒とう病	① パスポート顆粒水和剤に代えて、ベフラン液剤 25 250 倍(休眠期、1回)を使用してもよい。
	発芽直後 カイガラムシ類 特別対策	樹幹塗布 水 20 ml アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで	塗布 1回	1樹当り 20-40 ml	コナカイガラムシ類 (クビアカスカシバ)	塗布方法 ① 水:アルバリン=1:1で調合 ② 目安:直径10cm以上樹20ml、直径20cm以上樹40ml ③ 主幹分岐部下30~50cm程度、粗皮削りし塗布する。
／	展葉 6枚目頃	② 展着剤(ハイテンパワー) 10 ml トランスフォームフロアブル 50 ml ジマンダイセン水和剤 100 g	3日前 45日前	3回 2回	300	べと病・晩腐病 褐斑病・黒とう病 さび病 アザミウマ類 カイガラムシ類	① 薬害発生回避のため、高温時には散布しない。 ② 注意:ジマンダイセン・ゾーベックエニベル等のマンゼフ成分を含む農薬の年間使用回数は2回までとする。
	特別散布	展着剤(ハイテンパワー) 10 ml フェニックスフロアブル 25 ml	14日前	2回	300	スカシバ類・ケムシ類 ハマキムシ類 ハスモンヨトウ	
／	展葉 9枚目頃	展着剤(ハイテンパワー) 10 ml ストマイ液剤 20 100 ml	満開予定日 14日前~ 開花始期	1回	300	無種子化	① 花穂に当たるようたっぷり散布する。
／	展葉 7~11 枚頃	展着剤(ハイテンパワー) 10 ml フラスター液剤 ml	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	2回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容(ラベル等)を確認する。 シャインマスカット・クイーンルージュ®:2,000倍 種なし巨峰:500~800倍(10a当り100~150ℓ) ナガノパープル:500~800倍 ② 弱樹勢樹や若木等は新梢伸長が弱る可能性があるため、散布を控える。
／	開花直前	③ 展着剤(ハイテンパワー) 10 ml パレード15フロアブル 50 ml トクチオン水和剤 125 g	7日前 45日前	2回 3回	300	灰色かび病・褐斑病 黒とう病・うどんこ病 さび病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 灰色かび病防除重点事項 ◆ 温度管理を徹底し、生育ステージを揃える。 ◆ 開花直前・落花直後の防除を10日以内で実施する。 ◆ 花穂(果房)にしっかりと薬剤をかける。 ② 主幹・主枝部にも薬液が到達するようにする。
／	落花直後	④ アミスター10フロアブル 100 ml グレースシアフロアブル 25 ml コロマイト水和剤 50 g	30日前 7日前 7日前	3回 2回 2回	300	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ハスモンヨトウ・ハダニ類	① カイガラムシ類の発生園地はコルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。 ② 汚れや果粉溶脱の恐れがあるため、散布遅れに注意する。
／	満開 10日後	登録品種:シャインマスカット・ ピオーネ・ナガノパープルのみ フラスター液剤 200 ml	満開10日~ 20日後、但し 60日前まで	2回	150	新梢伸長抑制	① 登録品種:シャインマスカット、ピオーネ、ナガノパープルのみ(ナガノパープルは、収穫前日数(60日前)に注意する)。 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る恐れがあるため、散布を控える。
	特別散布 落花10日後	オンリーワンフロアブル 50 ml	前日	3回	300	晩腐病・褐斑病 黒とう病・うどんこ病 灰色かび病・白腐病 すす点病・さび病	① 汚れや果粉溶脱の恐れがあるため、散布遅れに注意する。 ② 褐斑病の発生がある園地は必ず散布する。
	特別散布 (袋かけ後)	展着剤(ハイテンパワー) 10 ml モベントフロアブル 50 ml	7日前	3回	300	カイガラムシ類 ハダニ類・アザミウマ類 ブドウサビダニ	① カイガラムシ類、ハダニ類発生園地は散布する。 ② 主幹害虫対策:主幹・主枝にも薬液が到達するようにする。
袋かけ後以降のハダニ類発生園地は、カネマイトフロアブル1,000倍(14日前、1回、10a当り300ℓ)を特別散布する。							
／	収穫後	⑤ 展着剤(アビオン-E) 50 ml ムッシュボルドーDF 200 g	—	—	400	べと病 さび病	① 褐斑病多発園地 対策:ムッシュボルドーDFに代えてジマンダイセン水和剤1,000倍(45日前、2回)を使用する。*注意:ジマンダイセン・ゾーベックエニベル等のマンゼフ成分を含む農薬の年間使用回数は2回までとする。 ② ムッシュボルドーDFに代えてコサイド3000の2,000倍を使用してもよい。
／	ビニール 除去後	⑥ 展着剤(アビオン-E) 50 ml ICボルドー66D 2.5 kg ダイアジノン水和剤34 100 g	— 30日前	— 2回	400	べと病、さび病 アブラムシ類 ハマキムシ類 ミドリヒメヨコバイ クワコナカイガラムシ 若齢幼虫	① ICボルドー代替:ムッシュボルドーDFの500倍又はコサイド3000の2,000倍を使用してもよい。ただし、ムッシュボルドーDFを使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン100倍を加用する。 ② ダイアジノン水和剤34に代えてスミチオン水和剤40の1,000倍(21日前、2回)を使用してもよい。
／	8月下旬	⑦ 展着剤(アビオン-E) 50 ml ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病 さび病	

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

◆ 混用例:展着剤 ⇒ 液剤⇒ 乳剤⇒ 顆粒水溶剤⇒ 水溶剤⇒ フロアブル⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤